

全国大会を真庭市で開催 第16回日本オオサンショウウオの会真庭大会



オオサンショウウオの魅力がたっぷり詰まった2日間

10月5日と6日の2日間、湯原地域で第16回日本オオサンショウウオの会真庭大会が開かれ、国の特別天然記念物オオサンショウウオの研究者や愛好者などが全国から集まり、情報交換や保護活動などを行いました。5日はオオサンショウウオの生体や環境について調べている専門家や研究者などによる発表やグッズ販売が行われました。また夜には旭川でオオサンショウウオの計測や組織片の採取などを行う観察会も行われました。

ご近所美術館に力作ぞらり 第16回落合まちかど展覧会

16回目を迎えた落合まちかど展覧会が9月29日から10月6日までの8日間開かれ、趣向を凝らした絵画や書、手芸品、木工品などさまざまな作品が地域内の40会場に展示されました。期間内は、落合総合センターのほか、駅や集会所、病院、寺や神社も美術館のように変わります。中には自宅を展示会場にする人もいて、作品を前に訪れた人とおしゃべりをする、そんな和気あいあいとした雰囲気を楽しみにしている人も多いようです。



まちかどにできた美術館には力作がぞらりと並びました



気迫のこもった立合い

9月29日、第17回真庭市相撲大会が勝山中学校の土俵で開かれ、市内からの3人をはじめ倉吉市と岡山市からあわせて35人が参加しました。この大会は真庭市内での相撲の普及と青少年の育成、参加者同士の交流を深めようと真庭市体育協会相撲部が毎年開催しています。参加した子どもたちは仲間の声援に背中を押され、土俵で熱い取組を繰り広げました。体育協会相撲部では毎週土曜に相撲教室を開き、更なる普及に力を注いでいます。

はつけよいで熱い取組 第17回真庭市相撲大会

9/23 優勝目指して懸命にプレー

真庭市スポーツ少年団美甘支部の招待バレーボール大会が開かれました。選手たちはお互いに声を掛け合ったり、得点が入るとハイタッチを交わしたりしながら、最後まで熱戦を繰り広げていました。



10/6 ジンギスカン大食い世界一

地域のソウルフードを広く知ってもらおうと、小中学生を対象にジンギスカンの大食い世界一を競う大会がヒルゼン高原センターで開かれ、挑戦者は次々に運ばれてくる焼きたてのラム肉を口一杯に入れていきました。



10/9 お芝居や舞踊で大盛り上がり

栗原神社秋季大祭協賛事業として毎年開催されている焼芝一座公演が開かれました。地域内外から観客が集まり、笑いあり涙ありの芝居「天竜鶴」や、迫力満載の舞踊などに見入っていました。



10/14 旭川りんくるラインでマラニック

旭川りんくるラインを走ったりのんびり歩いたりする旭川りんくるマラニックが開かれ、県内外から参加した人たちがマラニックを楽しみました。マラニックとはマラソンとピクニックを合わせた造語です。



10/20 着物ってやっぱり楽しい

旧遷喬尋常小学校で着物を気軽に着ようというイベントが開かれました。着物の小物や古着、飲食など28の店舗が和をテーマに出店しました。訪れた人たちは好みの品を手に取り着物を身近に感じていました。



真っ白なキャンバスにカラフルな世界が現れました

ピタゴラス放課後真庭巨大な壁に絵を描く

子どもたちのかべアート
ピタゴラス放課後真庭巨大な壁に絵を描く

ピタゴラス放課後真庭を利用している子どもたちが10月5日、草加部の事業所の壁に自由に絵を描くイベントに参加しました。高さ3メートル、幅80メートルという巨大なキャンバスと化した壁に、子どもたちは好きな模様や絵を描きました。子どもたちは服や顔がペンキだけになつてもおかまいなしで、ダイナミックに楽しんでいました。子どもたちの書いた絵は3年間保存され、いつでも見ることができます。



爽やかに晴れた空に若者の声が響きます

**自分たちで社の伝統を守ろう
式内八社秋の大祭**

10月9日、湯原地域の社地区で式内八社の秋季大祭が開かれました。社地区には式内社と呼ばれる格式高い神社が8つ集まっています。古くから伝わる祭りを守ろうと真庭市と連携している大学生も毎年祭りに参加しています。今年は地元の歴史について学んでいる湯原中学校の3年生も初めて参加して、神輿を担いだり巫女になつたりしました。また今年は9月に上棟祭が行われたばかりの形部・佐波良神社で神事が行われました。

